



頭書
講釋



齊賢堂
改正
無
點
全



八幡太尉義家美由の坊子義朝の御孫
 世に其の世に世に博士大納言
 匡房相ひひて義家孫れ
 なる大將おれもて文家乃
 りまはりていざいざと
 義家此弟おつけてと
 下られりてちひかくと
 義家匡房は初小殿やぞ
 背子となりて学おせしめり
 其後後之奉公義の時死なれり
 と礼にとてんて必伏せおれしとて
 隠れ居る故を去りて出
 後利とゆられり義家匡房お
 そまぶりてお考ふらん事と
 いそれりともやる記付は伏せ
 有りといふ本文孫子おえり



今川了俊を良賢の
 尉長氏に代の孫を
 今川了俊を良賢の
 去りて後之孫は西に
 探頭少文武兼儀の
 人なり其子中務少輔
 仲村少俊を良賢の
 詞は徳也(文乃)取
 人の乃とて学もて武家
 馬とて学もて武家
 子り武家よりともを
 りまはりていざいざと
 義家此弟おつけてと
 下られりてちひかくと
 義家匡房は初小殿やぞ
 背子となりて学おせしめり
 其後後之奉公義の時死なれり
 と礼にとてんて必伏せおれしとて
 隠れ居る故を去りて出
 後利とゆられり義家匡房お
 そまぶりてお考ふらん事と
 いそれりともやる記付は伏せ
 有りといふ本文孫子おえり

今川了俊良賢
 仲村制綱條
 一不知文道而武乃
 終ふ以務利事
 一好務習道を樂
 吾益殺生事



先祖に盡すの教

○生と樂むべし（生と死を共に楽しむこと）

○小色（色）の（人）の心（心）を（色）に（心）つ（色）ら（心）せ（心）よ（心）

○紀（罪）を（罪）に（罪）し（罪）て（罪）刑（罪）ら（罪）せ（罪）よ（罪）

○大科必す重刑（大科必す重刑）

○信（信）を（信）に（信）し（信）て（信）重（重）罰（重罰）と（重罰）す（重罰）

○民（民）を（民）に（民）し（民）て（民）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

○初（初）に（初）て（初）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

○社（社）を（社）に（社）し（社）て（社）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

○業（業）を（業）に（業）し（業）て（業）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

一 小色（色）を（心）に（色）つら（心）せよ

一 大科（罪）を（罪）に（罪）し（罪）て（罪）刑（罪）ら（罪）せよ

一 信（信）を（信）に（信）し（信）て（信）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

一 民（民）を（民）に（民）し（民）て（民）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

一 初（初）に（初）て（初）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

一 社（社）を（社）に（社）し（社）て（社）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

一 先祖（祖）に（山）家（家）を（塔）塔（下）に

一 破（破）壞（壊）を（私）私（室）室（事）事（事）に

一 君（君）父（父）を（重）重（母）母（令）令（忘）忘（却）却

一 忠（忠）者（者）を（報）報（事）事（事）に

一 枉（枉）曲（曲）を（勢）勢（重）重（私）私（用）用

一 不（不）忠（忠）と（不）道（道）徳（徳）を（事）事

○先祖に盡すの教
○生と樂むべし（生と死を共に楽しむこと）
○小色（色）の（人）の心（心）を（色）に（心）つ（色）ら（心）せ（心）よ（心）
○紀（罪）を（罪）に（罪）し（罪）て（罪）刑（罪）ら（罪）せ（罪）よ（罪）
○大科必す重刑（大科必す重刑）
○信（信）を（信）に（信）し（信）て（信）重（重）罰（重罰）と（重罰）す（重罰）
○民（民）を（民）に（民）し（民）て（民）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）
○初（初）に（初）て（初）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）
○社（社）を（社）に（社）し（社）て（社）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）
○業（業）を（業）に（業）し（業）て（業）重（重）刑（重刑）と（重刑）す（重刑）

古

古

一 不 每 道 不 去 而 息
 一 不 正 貴 爵 為 事
 一 我 如 知 臣 下 傷 无
 一 又 可 為 同 者 事
 一 全 道 乱 支 况 以 他
 一 人 然 樂 身 事

一 不 每 道 不 去 而 息
 一 不 正 貴 爵 為 事
 一 我 如 知 臣 下 傷 无
 一 又 可 為 同 者 事
 一 全 道 乱 支 况 以 他
 一 人 然 樂 身 事

一 夫 他 人 理 政 也
 一 至 尊 勢 權 威 事
 一 不 知 身 分 限 或
 一 道 分 或 不 是 事
 一 嫌 賢 臣 毫 毫 侮 人
 一 致 此 等 法 治 事

一 夫 他 人 理 政 也
 一 至 尊 勢 權 威 事
 一 不 知 身 分 限 或
 一 道 分 或 不 是 事
 一 嫌 賢 臣 毫 毫 侮 人
 一 致 此 等 法 治 事

此後人の遺徳を慕ふ
 人の羅網を脱する
 事ありて自ら自非
 分は此道に在りては
 ○乃其肯きてる事
 不笑して其れを
 又西遊西遊の事
 身を裏なりて
 むかひに盛衰を
 て其れ亦及ばぬ
 小名を杜其れ其れ
 業職を勤むる事
 人より好む事
 貴而もつて利を
 子れはつて方

一 非乃乃乃乃乃乃乃乃
 一 疎の裏表不可怪
 一 長酒宴狂與猪
 一 負忘家職事
 一 迷已利根犹万
 一 端如化人子

後うむつて世のつるもの
 人の首を切らるる
 ○若くはつては
 虚と云ふ病氣
 多し人小對面せざる
 のつてつてつてつて
 一 飲食は天物を好
 て我獨り人煙を
 人交ふ事ある都
 ○武具を衣装
 武具を衣装
 武具を衣装
 武具を衣装

一 人來則攝虛病
 一 不能對面事
 一 好獨味不能施
 一 人合隱居事
 一 武具を衣装已家
 一 空下下身是事

時と時と心懸きき
その揚子のそそく小
疑き徳ののこも
わら大相識のむれ
○我身が之は言西
知れぬきりのせれと
小のり入人羅集する
須長と初人小親ま
く庭又人と相ひも徳
とをさうり入人羅集
のり入人羅集する
こととをさうり入人
はく人の集るあり
ぬとこれも但二種は
別ありと云理地をとり
たふも一旦をたふは

今我掛下すは徳人の名
将多は法戒重出之教書
西老貴徳雅集来別の思
長法相諸人徳業生令壽
已行の如き家久後一茶成市
二種はく之を理非道と者一

下小氏をきんと謀略
操の軍の南を一あり
秋き懸む族管徳面と
扱合て格徳に奉ると
も有は分別と種はくは
井根多をれぬ下
すつてたの合言とそ
合徳きまき格おはせ
後世ま天下に憲法と
ぬきき法を改とんけ
あひ○をまやりの徳
と徳はくはくといと目
同徳明九に草草の
はくはく徳の國と徳
あひく徳の國と徳
はくはく徳の國と徳
はくはく徳の國と徳

且心又下下勢乃の食及徳
略はくはく物も時と秋徳族あり
扱勢角乃の重実方格一はくは
徳能人分別の礼下下根
但古今を重実乃の憲法はくは
為自若人者今自潤地

山海之隔るる遠國を
傾ける者或は彼方より
より自見の正しき事
まで直訳せずと用ひ
難と施し忠誠を責
不忠と對し忠誠を責
やう勸法人に其意不
通ひははきき○法王
の既なるもの不由
ある時に入らざる
人の中慢さけ批き
評判さうとさうと
一非十意難んぞ元生
は笑患と扱んや
は外に此法を演
んと評判さうとさうと

唯此を為救元生以仁
外如法法諸法研續亦
捨支或支乃法王兼仁我
禮智信嗣の危後乃仍
死と人相捕罪後令死
罪別其終原法と因果

受事法依はあらず
正行時拾すも
○國を治む民と
安んずるも
又及乃と人
附との羅小休七
少くも
挿入と羅せ
深うと一因果
そ我の科違ふ
改業此身一は
老すとすけ
して貴界と

唯此を為救元生以仁
外如法法諸法研續亦
捨支或支乃法王兼仁我
禮智信嗣の危後乃仍
死と人相捕罪後令死
罪別其終原法と因果

これが行要之○
 小蓋なき鹿を杖とす
 世に家屋を後南流
 云兼とす一抱具小
 長小私用は權なり
 御き却て馬馬乃小
 盗用して酒を此御小
 之き入小持持と共者
 ともせざる車に五飲の
 地と宛約小其小治を
 ○諸國は武人
 先般より知れし
 此の要要なり
 五を國も威勢とす
 五を國も威勢とす

かたのそむの道す
 角は○公義と知れ
 と公義を法すその
 小定れは世世乳と
 此のわは公義は
 之を御小用す其
 其之持持 貴とせ
 天此物とすは物
 ること私小を
 信くは○公義と
 居同は公義と
 誠とすは公義と
 同は公義と
 ○永享の徳花園
 永享の徳花園

不可道と村人忠
 能分別也云
 要也書重之御様私用弓
 馬乃公義用也持持人教
 之重重然以而能
 人自先統和行人分難也相

遠其内之儀
 勢美市更既生
 道家徒而能
 天下之制儀
 策者也仍
 永享元年九月十日



てあつたものか
まの教訓書

ひつとあつたか
首ははねたつたか
寺にまゐりて
しつこく入と登山と
極名神原を小教
訓と此書なり
仁におい勵と公士の
合戦のいそとつて

小国一の事
因天の事
唐土の事
てあつたものか
まの教訓書

初巻の内記教訓書

右大徳者不
其後初令
之時如
突和軍之
具取中
打物如
之海物
受大徳
其後初令
之時如
突和軍之
具取中
打物如
之海物
受大徳

打物如
之海物
受大徳
其後初令
之時如
突和軍之
具取中
打物如
之海物
受大徳
其後初令
之時如
突和軍之
具取中

抄りて名を来代
揚げて面目を能く
あはれ〇はあまの
自中対するの故
向ふはあまの
とて文を
覚るゝと
なり
あまの
あまの
あまの
あまの

とて名を来代
揚げて面目を能く
あはれ〇はあまの
自中対するの故
向ふはあまの
とて文を
覚るゝと
なり
あまの
あまの
あまの
あまの

之を来代に面目を能く
あはれ〇はあまの
自中対するの故
向ふはあまの
とて文を
覚るゝと
なり
あまの
あまの
あまの
あまの

七返万室の行
亦知得景不用
亦知得景不用
亦知得景不用
亦知得景不用
亦知得景不用
亦知得景不用
亦知得景不用

未行もあつた
 人との世に
 大層の
 公の
 文
 記



腰越状
 本朝
 海
 功
 入
 越
 形
 大
 於

志
 聞
 故
 終

腰越状

凍
 探
 似
 余
 介
 之

作が... 後... 中... 流... 追... 服... 思... 熟... 志... 志... 志...

の運... 合... 平... 城... 身... 戦... 小... 依... 底... 鞍...

及... 不... 行... 余... 流... 志... 志... 志... 志... 志...

純... 上... 仲... 嚴... 余... 瓶... 瓶... 瓶... 瓶... 瓶...

古

五

予等所記... 其本言... 父方馬... 檢非違... 職とあ... 予等所記... 六十余...

予等所記... 我國... 直と根... 予等所記... 六十余...

魏親... 業... 考... 補... 目... 德... 德...

往... 奉... 小... 通... 我... 取...

子孫小傳(年) 然とて一期(本) 寧とゆふ(下) あり(後) 推察と作(き) あり(元) 月とあり(元) 月(仲) 廿(年) て(平) 大(元) 寛(仁)



義經會狀 義經の事 義經の事 義經の事

義經河原合達 秘計傳信 子孫仍開 安寧之危 後令者時 集集作(長)

元曆二年正月 進上同情守殿 義經會狀 後田松平義經 之者河原合達 大浦津入流

〇末朝不世一も
 とるがくまらまさいこ
 とのりけは後小園にを
 のりさぬこれ賊一これ
 とは源和源氏の血統にて
 多田清仲の孫とて源氏嫡
 流といふも源氏を流
 又この母常世清仲の
 妻とてなりぬ〇まご
 をまより以下安方腰
 被状ふふと同日系
 都西海にて皇太子軍功
 あるとて生れ兄弟は源
 とて源氏系とてなりぬ
 とて源氏系とてなりぬ
 うられふ運とてなりぬ
 源氏系とてなりぬ
 源氏系とてなりぬ

天衣服従て民百姓後徳園
 尚家とて運は権を教重と
 或時を以て伏心又或時を海
 海上後園及び経切経道有暎
 鯨親之肥青麤之子一育水
 其耳生捕大臣教父子源

〇文治五年国司源氏自
 とあり源氏自実と
 旧月れ海月あり源氏の
 首徳金もも源とて
 妻清中もも源とて
 下りたが源とて
 実の源氏も源とて
 小宗も源とて
 下宗も源とて
 右宗清仲の孫とて
 元年右宗清仲の孫とて
 られぬ人なり

東海念源君源氏念源也
 厚徳源氏念源也
 勳功源氏念源也
 侍下源氏念源也
 感世之業固位頼老切
 権系父子頼老切



西塔武彦坊每度
寂期書捨之一通
練度へ送年し出雲
國鮮洲山又播磨國
書字山ふて書と讀
小比叡山の西塔武彦と
とんぬ武彦坊と稱
と博學の中へ別力

とを双に義捨小路
て各小戦死の附し書
とまひよつて寂期書
捨し書とて〇差
奉り出雲の鮮洲山
中月如高小
阿の二字と八直言
秘奥あり況別發乃
此偏小真言字密
此秘法と云り書す
あり又入定とて靜
さ字ふ能く法と規
海禪とて釋して
禪の定味と云ふ合
別胎産其比奥義
と考揮あり今略

古
若くは及今生後世に學
端は多岐に著後世に教
文法を重んじ月夜百義經
進上源有兵清佐敏
西塔武彦坊每度
寂期書捨一通

拙者年々内書所於雲
別轉洲山自筆形筆不
息日夜粗法阿得之二字
況五別除發更後之比偏
向真言由後法將抄秘
之秘法今定存傳庶信探

五戒は異なりするも其
 中不二となり真言小
 乘の大切の事○毎
 度母は胎内より生れ
 出たり玉の胎の傳の
 戒小犯 有きとすま
 仁義礼智信の五常
 の乃と護り此世而來
 乃二世に通せんを欲
 と先世は善業因縁の
 果なき時を戒れと
 ○源流はこれなり
 六條の律法は善業の
 戒牛禁食ハ未だ
 曹因は善業の戒の

令胎成於胎後今日之法
 尤大切は胎内母之胎也
 未だ犯戒人後常道
 欲多現世再在懷妊先世
 宿障難逢今日果善業
 源流は此善業の胎成

戒あり人して仁者
 戒れお見人小乘の
 之を先文を戒れ遊居
 小溢者新戒一戒の
 戒難ありん毎夜
 戒於五條橋小安思
 黨と俗ありん戒
 斬とひ俗ふ毎度
 及ていざや勝負と俗
 人を俗小へり橋は
 人にいざや勝負と俗
 小及りて○戒は
 船浦浪年美は太刀
 すがら法ありていざ
 戒外戒外戒外戒
 戒外戒外戒外戒

曹因は善業の胎成
 戒難ありん毎夜
 戒於五條橋小安思
 黨と俗ありん戒
 斬とひ俗ふ毎度
 及ていざや勝負と俗
 人を俗小へり橋は
 人にいざや勝負と俗
 小及りて○戒は
 船浦浪年美は太刀
 すがら法ありていざ
 戒外戒外戒外戒

古

十

長と心一と西海小却
ときも波の底小油
と掛て深小船と撃ぎ
とあぢハ汀小推とせ
終日金氣は焚火漢
はる祖腹人の居小て
武勇あびる又古周の
武と天下八面小諸侯と
命一華野小戦て殷
の討と討と討と一軍
再び出たるとと却り
の心り一〇已小凶怪の
平家と責と一関西と
はる本ととととと
然とこも梶原景時と逢
櫓小遠服と合とととと

仍張良智珠物冷々々々
御月夜卦西海約製と為
波原掛油收銀直推考行
終日焚火漢勇古長と逢
華野と軍再尋物法也と凶
性貴依欽運在才之処梶

教とて教をてして傳
れつゝ小貴とあり
は運橋といはれは日と
り平家と討んとせと
天風と掛と松と
中とととととととと
とと進退と自在と
はる新用とととと
より近きとととと
論ありととととと
とて天風小船とと
利ありととととと
とて肥とととと
とととととととと

亦依運橋と尋依徳者之
教の信亦成実也是者之
教は疎疎結つ如雪上霜
依然胡越子と尋問問
来更ととととととと
者之信亦成実也是者之

古
式
廿三

しうぢの
ときハ

愛人小春のうらみ
解す胡越の雲を
隔てまうりかたの月日
とてはし教をあら
海の中跡をあら
毎度かたへと進出を
別れの配之紙五片
荒波に身を流浪
老と尽せし目
元氣を失ふは依方良
心なきはと竊討
ひの胸を度八角に決
けて御き跡もなき
あつり○
衣箱と捕との跡なき
と云野山小用は

源氏小春は小春と
られ塔と破りし佛
吳國を朝小比敷なき
と就中園木下向茂
源大和は愛は勢小悪
身と實て夫小春
奥列小春と山伏
地もぬき居て難
源のり○
かたはられ時々度
廻文と探れるも

余美流流園花紅花糖油
小流も依今乃竊討時老
公天下分る未得別角半
三流流流流流流流流流
古新藏塔端取勢夫家我
花紅花紅紅紅紅紅紅紅

刻流為女衣三道名將牙
花紅花紅花紅花紅花紅
天宮の河津建厚小空流流
君道衣折首は身空書寫
舊印兵口故流の探苗由史
花紅花紅花紅花紅花紅

古
犬

廿三

駿之幼道懐と枝處
一ノ熊江と道れ
心世して奥羽小下
秀衡長陸小原の
秀衡後子息の
謀殺と企て故の
れは秀衡の
たき柄とせしむ
が成り居ると東小
王の戦場して遂櫓
魚の難言を云ふ
後人小遊れてと聞
せは之○毎度か
運も天命と云ふ
所小あてり大言

ふりつり奥羽の
少春衡兄弟と教
戦ひ夜小原の血
千里も赫しむ漢
祖が鳥に色中頂
と軍世も是祖の
とぞ○身女あま
は愛に二君小位
云先言と後固
死せし傷小す
死の面目(母事
今一命と弁て君
天小場け善と後
死後日校えあ

秀衡長陸小原の
秀衡後子息の
謀殺と企て故の
れは秀衡の
たき柄とせしむ
が成り居ると東小
王の戦場して遂櫓
魚の難言を云ふ
後人小遊れてと聞
せは之○毎度か
運も天命と云ふ
所小あてり大言

運天命と云ふ
後人小遊れてと聞
せは之○毎度か
運も天命と云ふ
所小あてり大言

十四



毎度か誠意を以て

徳吉送状

源家長徳吉次郎
實持一公は軍中
家の公達教盛と討て
その乱龍と敵方を送
りし時此状あり

今徳吉公方と奉答結縁
有之通の良投之善真経感
文活多子園月廿七日

徳吉送状

直實良徳吉言不
念世天以兵主
踐我捕

一、徳吉の討伐
三、徳吉の討伐
不徳吉不慮ふ
會ふ徳吉とて
負ふ徳吉とて
勾踐秦皇燕丹
唐古は故事
盛と徳吉と
不徳吉小次郎
此徳吉不慮
武勇も徳吉
不徳吉徳吉
徳吉徳吉

秦の燕丹之好
知徳吉不慮
勇の還の奉加
雲雀の徳吉
時徳吉徳吉
徳吉徳吉徳吉

源氏と背して平家味
 方々年々とも源氏を勢
 平家公を勢に英豪勇
 士春由日丸名々○也
 家武家家家家家家
 味方と旗と翻と戰場
 小て敵と有勢と天下を
 双た石と石とも敵此戸
 も實の如くこの源氏も
 く源氏のこの世に○
 愁ふ敵の命と味方へ
 奪集んたり戦死して
 西雲の海にゆくと
 家此面目も○は
 更哀愴も憐す悲歎
 ちとあつひひて

嗚呼の信春由魂主
 実運作生者も
 西翻兵敵旗定敵集
 天下数家敵此勢
 奪集劣者源氏集
 夫拔劍深指奪命指回方

れと信春の如く
 首と討ててを吊す
 ちと信源と押さ
 へ懸絶して敵とあり
 懸けけ○然れども
 運源とつらつら互
 生死流轉は絶と切り
 て一運説書の如くも
 ちと今昔と討て
 ちと源氏も別ら
 んや○用形も雨も
 の故と身も敵無
 直実かや状は
 くまへ世間

西雲の海に流るる
 家此面目も花中
 更哀愴も憐す悲歎
 夫拔劍深指奪命指回方

建久三年十一月... 實録... 然否寺として在り... 後元二年九月十四日... 日黒... 壽永二年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位... 壽永三年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位...



教盛... 實録... 然否寺として在り... 後元二年九月十四日... 日黒... 壽永二年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位...

常宿極其... 臨幸... 教盛... 壽永三年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位...

壽永三年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位... 教盛... 實録... 然否寺として在り... 後元二年九月十四日... 日黒... 壽永二年二月七日... 教盛と謂て... 小送... 伊賀平内... 平家... 二位...

之選てりる運命は
るるをれり今更驚
言ふ所の也○又
場下のぞいさき
一といふ所のなほあり
減一をりもあま
き無れりいふ事
死○親子と
先世のいふ事
途きぬあり秋
さし子羅喉羅
はとて悲し
月推化を衆
たすの備
之況底下あり
九まの子は

くいのの
七月朝方
より今
まを僕が
とて春
船り
小ま
乗
討
便
世
行
く

此は
第
不
此
常
奪
海
子

此
今
來
形

古
七
七

手も七日月あはれぬ
死骸とてさるるも
こころと思つるも
然るるんは月小八倍
心肝ふ落し外あは
いきては涙も雨は此名
増えりて今死骸の故
り春とて流れて二海が
くく 穢れし雨トキ
色之〇直実の芳園
あはれいさる教盛が
死骸とてさるるも
や戰場にてハ一家一
人討死しつるも
く見せる際もあはれ

捨ておく小祝敵は死骸
あはれ澤しむりさる
ぬらともその何國を
〇瀬山はそのまゝハ
万箇とていふその
小りき恩(高)茶
海は底もあはれ澤し
浦よりも芳澤まて源
りり是よりいふまゝ
果よりあはれ澤し
うり報ひされは御札紙
すもあはれ澤し
依は保て推察す
おれかゝる後でこの

信 案 沙 実 音 同 何 風 使
聞 甚 多 任 任 天 外 地 甚 多
絲 彩 彩 威 威 延 七 日 固 如
見 彼 死 骸 毛 何 家 以 笑 聖 強
回 回 任 任 任 任 任 任 任 任
催 後 補 但 生 生 生 生 生 生 生

又 毛 何 同 任 任 任 任 任 任 任
母 若 若 若 若 若 若 若 若 若
終 况 况 况 况 况 况 况 况 况
今 未 未 未 未 未 未 未 未 未
山 嵐 下 昔 身 深 身 深 身 深 身 深
在 初 下 未 未 未 未 未 未 未 未



曾我状

曾我兄弟の事
つゝ梶原景時より
曾我祐信は
状あり

今月廿八夜に
五士野に

清陣曾我十郎
依成同五弟討致
巧謀叛押寄法
所清陣曾我十郎
今夜に曾我十郎
五弟討致
建久四年癸丑五月
十二日朝に後河
土跡にて春物あり
月奉の大小者十人
此勢あり飯家
金陣は同八月

五士野に

曾我兄弟の事

梶原景時

大坂進状

今夜に曾我十郎

五弟討致

浪人曾我十郎

先年曾我十郎

勢運曾我十郎

後河土跡にて

曾我十郎

曾我十郎

雲我孫成身附致工
 有友廣 蔭 蔭 蔭
 屋形小 蔭 蔭 蔭
 敵 蔭 蔭 蔭 蔭
 依 蔭 蔭 蔭 蔭
 内 蔭 蔭 蔭 蔭
 止 蔭 蔭 蔭 蔭
 起 蔭 蔭 蔭 蔭
 十二万 蔭 蔭 蔭
 勢 蔭 蔭 蔭 蔭
 一 蔭 蔭 蔭 蔭
 巧 蔭 蔭 蔭 蔭
 八 蔭 蔭 蔭 蔭
 小 蔭 蔭 蔭 蔭
 刑 蔭 蔭 蔭 蔭
 年 蔭 蔭 蔭 蔭
 其 蔭 蔭 蔭 蔭
 小 蔭 蔭 蔭 蔭
 跡 蔭 蔭 蔭 蔭
 有 蔭 蔭 蔭 蔭
 時 蔭 蔭 蔭 蔭
 由 蔭 蔭 蔭 蔭

李波京初書
 聖辱
 且
 重
 谷
 堂

及
 首
 慶
 大
 因
 芳

如件

曾我兄弟は係小
出れはた大かこころ
と離れ浪人なり奈
後と終わられし小次
弟は後へ曾我兄弟
の又又回膝は兄弟
は病少事小然も
縁師房は三原に執
出家して誠後の事
小せり居し大保東
の縁師とよりけり
皆て自害し死に
し終らざる捕漁念
小ひるは謀せしれり

建之四葉青曾
平二景附

曾我兄弟
同返状

去晦日濟教書
今月二日
鎌倉見往
抄小次弟縁師
坊等
弟志京初居
由承及の格別

經此致野之御事
後父大國秀頼今下威
天上相波之為目兼花名
教每之配情文上京業不奇
有給給後廣之百田法
少補身之少受免後天下

運高不之奉守其法
見世得別秀頼送之極
何切少之和別公我候表
裏何甚代未之惟大國忘
厚其身秀頼死行下國成
現之又之結果之全及是

以清俸者... 俸除坊... 之る不... 間不及... 以世... 申... 二月音... 曾... 某... 進上... 梶原平家

一國... 臣... 秀... 慶長十九年秀賴



<p>菊... 改書... 松抄</p>	<p>緒... 中... 一九作</p>	<p>永代... 中... 新形</p>	<p>安政七... 野... 上... 野... 日... 中... 如...</p>
<p>應... 大... 中...</p>	<p>春... 中...</p>	<p>新... 中...</p>	<p>書... 野... 上... 野... 日... 中... 如...</p>

